



プレスリリース

2019年11月1日
Peach Aviation 株式会社

Peach とバニラエア統合完了のご報告 ～新しい価値を創出する、アジアのリーディングLCCへ～

- ・ 統合後のブランドは「Peach」
- ・ バニラエアとしての運航は10月26日(土)にて終了
- ・ 本日11月1日付でバニラエア社員がPeachに転籍し、新体制のPeachが始動

Peach Aviation 株式会社(本社:大阪府泉南郡、代表取締役 CEO:井上 慎一、以下:Peach)は、本日、バニラ・エア株式会社(本社:千葉県成田市、代表取締役社長:井上 慎一、以下:バニラエア)との統合が完了したことを発表しました。

2018年3月の発表以降、準備を進めてきたPeachとバニラエアの統合にともない、バニラエアの運航は10月26日(土)をもって終了し、Peachに事業が統合されました。また、運航終了までバニラエアでの業務に従事していた社員、そしてPeachへの出向または兼務出向という形で段階的にPeachの業務に携わってきたバニラエア社員につきましても、本日11月1日付で、Peachへの転籍が完了し^{※1}、本日より、Peachは新たな体制にて事業に取り組んでまいります。

統合後のPeachは、年間輸送旅客数において国内第3位の航空会社・国内No.1のLCC^{※2}となります。今後も、安全運航を基盤に、潜在需要を掘り起こし、日本およびアジアの人々に新しい価値を提供する「アジアのリーディングLCC」を目指します。

Peachは、これまで安定した運航品質と様々なイノベティブな取組みで日本のLCCを牽引してまいりました。そのPeachと、首都圏に根付きネットワークを拡大してきたバニラエアがひとつになることで、双方の強みを融合させ、日本のみならずアジアマーケットにおけるPeachの競争力を高めてまいります。また、Peachおよびバニラエアそれぞれで培われた独自性際立つ企業文化を大切にしながら、企業として更なる成長を図り、新たな価値を広く社会に創出していくアジアのリーディングLCCを目指します。

※1 バニラエア運航終了に伴う事務処理に携わる、一部社員を除く

※2 2018年度のPeachとバニラエア輸送旅客数(国内線・国際線合計)実績を合算した場合

統合後の事業概況 (2019年11月1日現在)

会社名	Peach Aviation 株式会社
代表者	代表取締役 CEO 井上 慎一
社員数	1,649名(派遣社員・出向者を除く)
路線数	国内線 19 路線、国際線 18 路線 合計 37 路線 ^{※1}
就航都市	国内 14 都市、海外 7 都市
機材数・使用機材	28 機 ^{※2} ・エアバス A320-200 型機

<以下は、2018 年度 Peach・バンニラエア合算実績>

年間輸送旅客数 約 815 万人^{※3}

※1 今年中に、バンニラエアが運航していた 3 路線(福岡-台北(桃園)線、東京(成田)-石垣線、大阪(関西)-奄美線)を Peach として運航開始し、国内線 21 路線、国際線 19 路線の合計 40 路線となる予定。

※2 バンニラエアが保有していた機材 15 機のうち 12 機を順次 Peach 機に改修し、運航する予定。
(2019 年 11 月 1 日時点で、既に 3 機は Peach 機として運航中)

※3 2018 年度の Peach・バンニラエアの合算実績(Peach 551.7 万人 バンニラエア約 263.5 万人)

Peach について(www.flypeach.com)

Peach は、2012 年 3 月に関西空港を拠点として運航を開始しました。現在、関西空港に加え、新千歳空港、仙台空港、成田空港、那覇空港を拠点空港とし、28 機の機材で、国内線 19 路線・国際線 18 路線に就航しています。1 日あたりの運航便数は約 130 便で、毎日 19,000 人以上のお客様にご利用いただいています。Peach は「アジアのリーディング LCC」を目指し、本年 11 月 1 日に、成田空港を拠点空港としていたバンニラエアと統合しました。